

学校だより し お や き

NO.14

～明るいあいさつとわくわく感がある学校～

市川市立塩焼小学校 児童数 796名
令和6年11月14日(木)発行
TEL 047-397-1231 FAX 047-397-1232

学校教育目標

命 はなまる！

かしこく 誇らしく ねばり強く

【めざす児童像】

- ・考え、判断する子
- ・自分も相手も大切にできる子
- ・体をきたえ、ねばり強く取り組む子

校長 吉田 直美



日本の食料から「命 はなまる！」を学ぶ ～4年生の校外学習を通して～

10月28日、11月11日の二日間に2クラスずつに分かれて、4年生が成田公設市場と成田国際空港に行きました。

成田公設市場では、愛媛県宇和島市から海水ごと陸路で運ばれてきた魚たちがいけすの中でたくさん泳いていました。業者の方が網にすくって見せてくださり、元気に跳ねている魚。

子どもたちは、大きな真鯛を目の前にして、「可愛い」「すごい」「魚大好き」「おいしいよね」「お寿司も好き」などと話していました。真鯛、カンパチ、はまち、ヒラメなどを見ながら魚談議が進みます。そこで私が近くにいた子に「食べたい？」と尋ねると「うん！」と返事が。

さあ、ここからが命の教育です。

私はあえて、「食べたいよね。この目の前のたくさんのお魚食べられたらいいよね。」

子どもは「うんうん」



私は「殺せば食べられるよ」(あえてその言葉を使いました)

子ども「ええええ、かわいそう」

私「でも、お寿司屋さんで私たちが食べる魚たちは、みんな生きていたんだけどなあ」

子ども「そうか・・・」(と、何やら考えているような表情になっていました)

私「魚だけではなくて、肉も、牛や豚や鶏は生きていたんだよね」

食前の挨拶「いただきます」には(生き物さん、あなたたちの命を)「いただきます」ということが表現されており、食後の「ごちそうさまでした」には、(生き物さん、あなたたちの命を)「ご馳走としていただきました」という命に対する感謝の気持ちがその言葉に表れています。

上記の会話で子どもたちは何をどのように考えたのでしょうか。もしかしたら、その日からいただきますという言葉への気持ちが変化したかもしれません。私の話した意味がよくわからなかったかもしれません。その会話をとっくに忘れているかもしれません。それでもいいと思っています。その時考えたことは、ゼロにはならないからです。

「僕らはみんな生きている～生きているから笑うんだ～ みみずだっておけらだって～ みんなみんな生きているんだ 友達なんだ～」 手のひらを太陽に、の歌詞が浮かんできました。

さて、子どもの学習に直接関わる担任等の職員は、毎日の学習指導計画を立て、隔週で提出してくれています。毎週、指導の記録を残し子どもたちがこんなことを頑張ってくれた、成長してくれた、もっとこう指導したらより成果が出るかもしれない、日々試行錯誤しながら子どもたちと向き合っています。毎月1回は、命について触れる学びの時間があったかどうか、自己決定の場を設けたかどうか等も振り返っています。今回の市場見学を通して、日々のちょっとしたタイミングであっても大切なことを考えるきっかけはあるものだと、改めて感じた次第です。